

地域素材を生かし生徒の関心を高め探究する力をのばす授業づくり

学習開発コース (10220910) 鈴木 和 紀

本研究では、中学校社会科地理的分野における「日本の諸地域」の「東北地方」について中核事象として「祭り」を扱い、動態的な学習による単元開発をおこなった。先行研究から、動態的に地域的特色をとらえさせるために単元をつらぬく問いとして「なぜ疑問」を設定すること、仮説・検証していくために小単元の導入部分では静態地誌的な学習が必要であることがわかった。

〔キーワード〕 中学校社会科、授業づくり、日本の諸地域、動態的地誌学習

1 問題の所在と方法

(1) 問題の所在及び研究の背景、研究の目的

現行の中学校学習指導要領では地理的分野においてそれまで網羅的に取り上げられることが多かった日本と世界の諸地域に関する学習が見直されている。内容についての厳選とともに、社会の変化に対応する資質や能力を育成する観点から、学び方や調べ方の学習の充実が図られた。しかし、今回の改訂により、世界と日本についてそれぞれの全体を一通り学び、幅広い地理的認識を養うことが目指されることとなった。『中学校学習指導要領解説（社会編）』（以下『解説』）では「世界の諸地域と日本の諸地域に関する地誌的な学習を充実させる方向で内容の構成を図った」と説明されている。そこで今回の改訂において再び行われることとなったのが、日本の諸地域の学習である。

日本の諸地域の学習は、現行の学習指導要領以前の中学校社会科地理的分野では中心となっていた内容である。それは、各地方の特色について多様な事象を項目ごとにとらえようとするものであった。しかし、項目ごとに整理し地方の特色をとらえようとする学習は前述の通り、事実認識に重点がおかれ、結果として覚える学習になりやすい傾向がみられた。そこで今回の改訂では地理的分野において基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視するとともに、事象間の関連を追究したり説明したりするなどの学習を通して、地理的な見方や考え方の基礎を養うことが重視されている。日本の諸地域の学習においても、日本全体について任意に地域区分した上で、地域的特色を動態的にとらえさせるように改訂された。ここで「動態的」な学習および「有機的に関連付け」についてそれ

ぞれ整理する。

『解説』によれば「動態的」とは「地域の特色ある事象や事柄を中核として、それを他の事象と有機的に関連付けて、地域的特色を追究する」学習を指しており、地誌を学習する際の1つの方法として動態地誌と呼ばれている。一方、現行の学習指導要領以前の日本の諸地域学習のように項目ごとに整理して考察し、地域的特色をとらえようとする学習は静態地誌と呼ばれている。図1、2はそれぞれ静態地誌的な考察の仕方と動態地誌的な考察の仕方のイメージ図である。

図1「静態地誌的な考察の仕方」のイメージ図

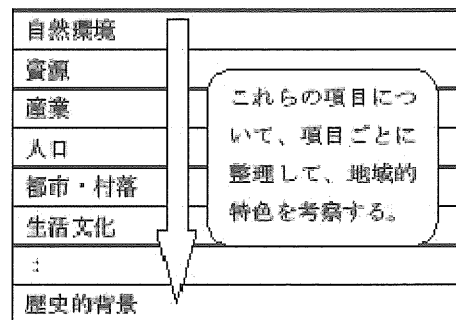
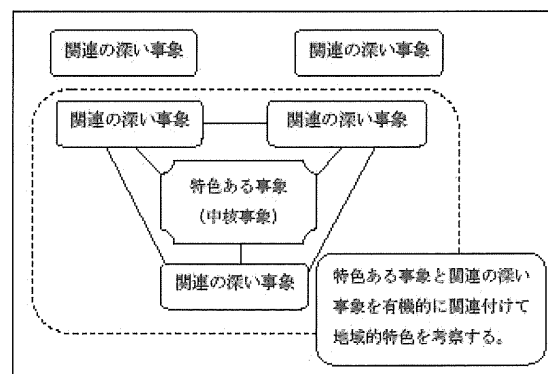


図2「動態地誌的な考察の仕方」のイメージ図



「有機的に関連付け」とは「地域の特色は様々な事象が結び付き、影響を及ぼし合っていることに着目して、地域的特色を中核となる地理的事象と他の事象との関連からとらえ、その成り立ちを考察すること」である。また、「追究するようにすること」とは「生徒が、地理的事象を見いだしてその特色を調べたり、事象間の関連を考察したりして、地域的特色をとらえていくこと」である。

また、今回動態的に地域的特色をとらえる上で『解説』においては、動態的に地域的特色をとらえていくために、それぞれの地域について以下の3つの段階を経るとともに(ア)から(キ)で示した考察の仕方を用いるよう示されている。

○「日本の諸地域」学習における3つの段階

- I 地域の特色を示す地理的事象を見いだす段階
- II 中核事象と他の事象とを関連付けて追及する段階
- III 追及の過程や結果を表現する段階

○「日本の諸地域」学習における「考察の仕方」

- (ア) 自然環境を中核とした考察
- (イ) 歴史的背景を中核とした考察
- (ウ) 産業を中核とした考察
- (エ) 環境問題や環境保全を中核とした考察
- (オ) 人口や都市・村落を中核とした考察
- (カ) 生活・文化を中核とした考察
- (キ) 他地域との結び付きを中核とした考察

これらの考察の仕方について、地域ごとにどの項目で行うべきか決められておらず、各地域について扱う地理的事象は適宜選択することが教師に求められている。そのため、どのような選択をするかによって様々な考察が可能となっている。『解説』地理的分野「(2) 日本の様々な地域」の「ウ 日本の諸地域」の学習において、教師は地域の特色について分析とともに、動態地誌的な学習によって「日本の諸地域」の学習をすすめるための教材開発が求められている。これらの状況をふまえた上で、本研究の目的は次の2点である。1点目は動態地誌的学習において事象と事象を有機的に関連付けることとはどのようなことが検討することである。2点目は、日本の諸地域の1つである「東北地方」について独自の教材開発を行うことである。

(2) 研究の方法

文献による先行研究を調べ、動態的な学習による日本の諸地域学習の在り方について整理する。その整理に基づき、日本の諸地域の1つである「東北地方」について教材開発を行い検討していく。

2 先行研究の検討

日本の諸地域の学習の教材開発の研究動向
〈動態地誌的学習における学習過程論〉

『解説』では動態地誌的学習における学習過程について、前述の通り3つの段階を通した学習展開例を挙げている。山口(2010)は、「日本の諸地域」における各単元(各地方)の学習過程の構成を以下のように整理し提唱している。

- 「A○○地方の基本的特色(概況)の理解」
(1～2時間)
- 「B中核的事象「△△△」に基づく○○地方の特色の追究・考察」
(2～3時間)
- 「Cまとめ○○地方の全体的特色」(1時間)

それぞれA過程では地方の理解に必要な基礎的・基本的な事柄を取りあげる。B過程の学習では、中核事象に基づく追究・考察の学習を行い、生徒による思考・調べ・作業など、生徒の主体性を活かした学習(追究・考察)を行うようにする。そして、C過程では学習のまとめとして、地方の特色をまとめるだけでなく、日本全体の中でのその地域の役割や地域の課題という観点から考察することが重要であると指摘している。

また、塩満・岩田(2009)は中核事象に関する単元をつらぬく問いを「なぜ疑問」として設定し、それに結びつく下位の問いを毎時間設定する授業モデルを示している。塩満・岩田が開発した「関東地方」の概要は以下の通りである。

塩満貞徳・岩田一彦「関東地方」

【考察の仕方】

(キ) 他地域との結び付きを中核とした考察
中核事象「東京を中心とする交通網」
〈単元計画〉

- 第1時：関東地方をながめて
- 第2時：首都・東京
- 第3時：東京と結びつく関東地方
- 第4時：世界と結びつく関東地方
- 第5時：関東地方のまとめ

※Ⅰ…第1時 Ⅱ…第2～4時 Ⅲ…第5時

〈単位をつらぬく問い〉

日本の交通が東京を中心に整備されているのはなぜだろう。

〈下位の問い①〉

なぜ、東京を訪れる人が多いのだろう。

〈下位の問い②〉

関東地方の鉄道は、なぜ、東京と複雑に結びついているのだろう。

〈下位の問い③〉

羽田空港の国際化が進められているのはなぜだろう。

「なぜ疑問」を追究することは事象間における因果関係を「〇〇だから△△である」という説明的知識の形として生徒に習得させることにつながる。このことは事象間が「有機的に結びついている」ことを生徒が感じることでできる活動であるともいえる。また、塩満・岩田は第5時の後半の学習活動として「地域性のもつ意味を考える段階」を設定し、特色の認識内容に基づいて今後の関東地方を予想させることで関東地方の特色を学習する意義を生徒に実感させようとしている。

小谷(2009)は塩満・岩田と同様に「なぜ疑問」を設定し「近畿地方」の教材開発を行っている。

小谷恵津子「近畿地方」

【考察の仕方】

(カ) 生活・文化を中核とした考察

〈単位をつらぬく問い〉

近畿地方はどのような特色がある地域なのだろう。

〈下位の問い①〉

なぜ祇園祭りでは、一部で女性の参加が認められるようになったのだろう。

〈下位の問い②〉

なぜ橿原市今井町の人々は、伝統的な町並みを保存することができたのであろう。

〈下位の問い③〉

なぜ灘の酒造会社は、化粧品やお菓子などを生産しているのだろう。

【概念知識】

近畿地方は日本の中でも長い歴史と伝統を持っているので、人々の生活の中に伝統的な文化が根

付いており、それらの文化は全国的にも広く知られている。その一方で、社会や生活、人々の考え方の変化に対応しながら、伝統を守り育てる工夫が行われている。

ここでの「概念知識」とは小谷が設定した3つの事象から帰納的に推理させた近畿地方における地域的特色の仮説であり、先に取り上げた、塩満・岩田の授業モデルでも関東地方のまとめとして行われている。しかし、小谷が設定した事象はそれぞれ近畿地方内で見られた単一の事象であり、同一の都道府県での事象ではない。小谷はこの帰納的推理によって得られた仮説が「近畿地方全体」にあてはまるかをさらに演繹的に推理させることにより、地域的特色であるかを検証している。

3 実践と結果（明らかになったこと）

〈「東北地方」の教材開発〉

本研究では、「(カ) 生活・文化を中核とした考察」を通して東北地方の特色をとらえさせる教材開発を行った。工夫点としては次の2点である。

①仮説を立て検証する過程を重視し、仮説を検証するために必要な情報や方法について話し合わせる段階を設定していること。

②調べた結果を発信していく力を伸ばすために、可視化して発表する場面を設定していること。開発教材について指導案を以下に示す。

〈小単元の目標〉

- (1) 東北地方の特色ある地理的事象に関心をもち、地域的特色を明らかにする学習に意欲的に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- (2) 東北地方の生活や文化が、厳しい自然や変化する産業と深く関わっていることを、多面的、多角的に考察することができる。(思考・判断)
- (3) 様々な資料を適切に選択、活用して東北地方の地域的特色を読み取り、まとめることができる。(技能・表現)
- (4) 伝統的な産業や文化が受け継がれている東北地方の地域的特色をとらえることができる。(知識・理解)

〈単元計画〉5時間扱い

時	主な学習活動
1	東北地方の概況を知る。 ・東北地方の基本データを調べる。

2	<p>単元を貫く学習課題を設定し、仮説を立てる。</p> <p>なぜ東北地方では伝統的な祭りが多く受け継がれているのだろう。</p>
3	<p>なぜ東北地方では夏に大きな祭りが行われているのだろう。(※下位の問い①)</p> <p>東北6大祭りなど、東北で行われている祭りの様子や起源を小グループに分かれて調べる。</p>
4	<p>近年になり、伝統的な祭りに変化が現れ始めてなぜだろう。(※下位の問い①)</p> <p>黒石寺蘇民祭、山形花笠おどりなど、近年変容が見られる伝統的な祭りに関わる、社会や人々の生活の様子について調べる。</p>
5	<p>東北地方の地域的特色についてまとめ、地域の課題について考える。</p>

【下位の問い①に対しての説明的知識①】

夏に行われる祭りの多くは、起源として真夏の仕事を妨げる睡魔を水に流す「眠り流し」や五穀豊穡を祈願するものであり、今日では、地域の重要な観光産業としての役割も果たしている。

【下位の問い②に対しての説明的知識②】

祭りを支える人手の不足や地域の産業構造の変化、観光産業化していく中で、伝統的な祭りが変容しながらも伝統を守る活動が行われている。

【概念知識】

東北地方は自然環境が厳しく、豊作を祈願したり災害から人々を守ろうとしたりする文化が根付いている。観光の対象になることや、生活や人々の考え方の変化によって伝統的な文化が変容しながらも、伝統を守り育てる工夫が行われている。

4 考察

先行研究の多くにおいて、地域的特色について動態的にとらえていくために「なぜ疑問」を設定し、事象間の因果関係について仮説を立て、検証していく授業モデルが提唱されている。新学習指導要領では、「日本の諸地域」の学習について静態地誌的な学習ではなく、動態地誌的な学習を行うとしているが、「なぜ疑問」に対して仮説を立て、各地方についての地域的特色の追究・考察を行うためには自然や産業、人口など、地域の概況を既得知識として習得することが必要不可欠である。

そのため、小単元の導入部分においては生徒に基礎的な知識を習得させることが重要であり、静態地誌的な学習を行う必要があるといえる。

また、新学習指導要領では7つの考察の仕方が提示されているが、考察するために用いる中核事象の選択も複数存在する。例えば東北地方において「生活・文化」で考察する場合、中核事象として祭り以外に伝統産業や歴史的町並み保存、郷土料理などを扱うことが可能である。

5 到達点と課題

これまでの研究の結果から本研究では「日本の諸地域」についての学習過程について先行研究を整理するとともに東北地方について「(カ)生活・文化を中核とした考察」をもとに教材開発を行った。しかし、開発した本開発教材について授業実践を行っておらず、内容についての検証が必要である。また、東北地方において異なる考察の仕方をを用いての地域的特色についての分析、または他の中核事象を基にした教材開発が今後必要であるといえる。

引用・参考文献

- 小谷恵津子：「地図を活用して『日本の諸地域』の特色を『説明する力』をつける授業モデル」，岩田一彦・米田豊編著，『「言語力」をつける社会科授業モデル 中学校編』，pp. 71-76，明治図書，2009
- 株式会社荘銀総合研究所：「東北6大祭りの経済効果」，
<http://www.f-ric.co.jp/report/research/2007/festival0822.pdf> アクセス2010年12月26日
- 文部科学省(2008)：『中学校学習指導要領解説 社会編』，日本文教出版
- 塩満貞徳・岩田一彦：「動態地誌学習による『日本の諸地域』の授業づくり」，
<http://www.e-tech.life.hyogo-u.ac.jp/j-leader/weblib/data/24.pdf> アクセス2010年12月10日
- 谷聡：『「日本の諸地域」の特色を『説明する力』をつける授業モデル』，岩田一彦・米田豊編著『「言語力」をつける社会科授業モデル 中学校編』，pp. 58-63，明治図書，2009
- 渡辺良正：『お祭りガイド[東北]』，三一書房，1990
- 山口幸男：「動態地誌的学習における学習過程論」，『社会科教育』，No. 618，pp. 118-121，2010